



# 三陸鉄道株式会社 (A)

5

昭和60年8月初旬、東北新幹線で一ノ関駅に下り立ったケースライターは、真夏の陽光が強くふりそそぐなかを国鉄ローカル線（大船渡線）に乗り込み、盛駅へ向かった。

起伏の多い山間部を約3時間かけて、列車は漸く盛駅へ到着した。ここは日本初の第三セクターとして、昭和59年4月営業運転を開始した三陸鉄道株式会社（以下三陸鉄道、あるいは三鉄と略称）の南リアス線の始発駅である。

10

ここから北へ久慈までの163kmは美しいリアス式海岸が連なっており、そのうち南北リアス線に三陸鉄道のアイボリー・ホワイトにマリン・ブルーと情熱の赤を配色した洒落たジーゼルカーが運転されている。このジーゼルカーはローカル線にしては垢ぬけた、清潔さを感じさせる。車内には飲料自動販売機が配置され、汚物処理装置付トイレが付いている。

ケースライターはこの2両編成のジーゼルカーに乗りながら、乗務員の接客態度や業務に対する真摯な態度に好感をもつと同時に、三陸鉄道がその経営にかける意気込みを垣間見る想いであった。

15

三陸鉄道が開業後1年余を経過した時点で、予想に反し昨年度は黒字を計上したとは言え、今年度に入ると夏の観光シーズンを迎えても昨年同期比10%近く旅客数が減少していた。

20

同社の首脳陣は、去年は開業ブームという特殊要因による所が大きく、今年度の旅客数の減少はブームの鎮静化を考慮すれば、目標値に近い数字であると考えていた。同時に、三鉄の首脳陣は今後の対策に慎重に取り組もうとしていた。

## 沿 革

25

昭和59年4月1日営業運転を開始した三陸鉄道株式会社は、北リアス線（宮古－久慈）、南リアス線（盛－釜石）の両線を営業区間とする、いわゆる第三セクターである。同鉄道が敷設されている三陸沿岸は青森、岩手、宮城の各県にまたがり（180km）、その全長が美しい陸中海岸国立公園に指定されている。

---

本ケースは、慶應義塾大学藤枝省人教授が同大学大学院生平井岳哉氏の協力を得て、教育に使用する目的で作成したものである。本ケースの作成にあたっては、三陸鉄道株式会社および岩手県総合交通対策室の御協力を得た。ここにその御好意に対し、深甚なる感謝の意を表したい。（昭和60年11月 作成）

30